

# 農林水産委員会 県内所管事務調査の概要

【平成30年5月9日（水）】

## ◆調査箇所：農事組合法人なかえ（由布市挾間町谷）

<概要>

農事組合法人なかえは、集落内のほぼ全ての農地を経営し、地域の重要な担い手となっている。品目ごとに経営分析を行い、利益を確保できる麦、大豆を経営の柱としている。集落営農経営強化対策事業等を活用し、トラクター等の機械を整備するとともに、近隣の法人とコンバインの共同購入も行い、法人間連携のモデルとなっている。

今回の視察では、法人の概要と集落営農の取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・集落営農法人における役員の役割分担のメリットについて
- ・大豆、麦の生産量と販売先について
- ・高齢化等による今後の課題について

## ◆調査箇所：株式会社玉井木材センター竹中プレカット工場（大分市竹中）

<概要>

株式会社玉井木材センターは住宅資材供給を行う、県内最大のプレカット工場である。大断面の木材については、これまで手加工を行っていたが、平成28年度に県の補助事業を活用した新たな加工機を導入することで機械加工が可能となり、今後増加が見込まれる大型木造物件への対応が可能となっている。

今回の視察では、導入した機械の能力や住宅における工法合理化の取組について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・地域材パネル工法について
- ・非住宅物件への対応について

## ◆調査箇所：株式会社ふるさと館（大分市奥）

<概要>

株式会社ふるさと館は、社会福祉法人ひまわり畑との農福連携により、大分市吉野・戸次地区で高菜の生産と漬物の一次加工を行っている。

近年、漬物原料の国産指向が高まっており、産地パワーアップ事業を活用し、平成29年度に農産物加工処理施設を建設している。今後は、漬物原料となる高菜の作付け面積拡大にも取り組む予定である。

今回の視察では、障がい者雇用の状況と農産物加工施設の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・漬物原料の確保における、他の福祉施設との農作業連携について
- ・障がいのある方に対する、農作業の指導方法及び体制について
- ・漬物原料の販売先等について

◆調査箇所：株式会社大分県畜産公社（豊後大野市犬飼町田原）

<概要>

株式会社大分県畜産公社では、平成28年8月から新施設の稼働・操業を開始している。新施設は、県内唯一の食肉処理施設であり、高度な衛生水準と国際化に対応するため、食品衛生管理の国際基準であるHACCP方式を導入し、安全で衛生的な食品管理を徹底している。

今回の視察では、新施設の設備や衛生水準の概要、実際の牛・豚処理の流れ及び北米向け輸出対策等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・工場見学者数の推移について
- ・北米輸出の対応について
- ・おおいた豊後牛の県内消費対策について

【平成30年5月10日（木）】

◆調査箇所：中部振興局、大分家畜保健衛生所

<概要>

中部振興局（管轄：大分市、臼杵市、津久見市、由布市）及び大分家畜保健衛生所（管轄：大分市、別府市、臼杵市、津久見市、由布市）から、組織及び管内の概要、農林水産業の担い手確保の取組、集落営農の推進、有害鳥獣対策、家畜伝染病対策などの主要事業の概要及び進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・野菜栽培における土づくりの支援について
- ・獣医師の確保対策について
- ・森林管理道入蔵大峠1号線ほかの進捗状況について

◆調査箇所：佐賀関漁港水産物荷捌き関連施設（大分市佐賀関）

<概要>

大分県漁業協同組合佐賀関支店では、佐賀関ブランドの確立と向上を目指して、佐賀関漁港に物流機能高度化対策施設を整備している。この施設により陸揚げから加工・流通に至るまで一貫した流通機能が確立され、省力化や就労環境の改善が図られている。

今回の視察では、漁港に設けられたいけすや出荷施設及び関あじ、関さばの出荷までの作業等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・関あじ、関さばの価格対策について

◆調査箇所：大分県漁業協同組合佐賀関支店（大分市佐賀関）

<概要>

関あじ、関さばが全国ブランドとなっている大分県漁業協同組合佐賀関支店においても、漁業者の74%が65歳以上と高齢化が進んでおり、新規就業者対策が喫緊の課題となっている。漁協では、平成21年度から国や県、市の事業を活用し、漁業の担い手確保に取り組んでいる。

今回の視察では、佐賀関に移住した5名の新規漁業就業者と意見交換を行い、漁業研修や移住による生活面での苦勞、課題等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 都会からの移住に伴う、住宅環境・生活面での行政の支援について
- ・ 新規漁業就業希望者に対する親方制度及び漁業指導のマニュアル化について

◆調査箇所：農村地域防災減災対策事業 大久保ため池地区（大分市松岡）

<概要>

大久保ため池は、水田25haを受益地とする大正時代に築造された農業用ため池である。老朽化が進み農業用水の確保に支障を来しており、大規模な地震や豪雨では下流の農地や人家に多大な被害を及ぼすことが懸念されている。

今回の視察では、取水施設の改修や浸食した法面、堤体等の改良工事の進捗状況について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・ 改修工事に伴う地元負担の軽減について
- ・ 工事に伴う環境配慮の取組について

【平成30年5月15日（火）】

◆調査箇所：株式会社フレッシュグルメ大分支店犬飼工場（豊後大野市犬飼町田原）

<概要>

福岡県に本社を持つ株式会社フレッシュグルメは、学校給食、病院、外食産業等への冷凍カット野菜の製造販売を手がける企業である。昨年11月に犬飼工場を稼働させ、豊後大野市内の集落営農法人等が生産する地元の野菜を加工し、全国に出荷するとともに、農業生産法人株式会社創を設立して播種や収穫作業を受託している。同法人が労働力を提供することで、野菜の作付け推進にも効果が出ている。

今回の視察では、生産ラインの視察を行い、今後



<主な質疑等>

- ・ 豊後大野市、竹田市での事業拡大について
- ・ 冷凍野菜の出荷先と営業活動について
- ・ 冷凍野菜の今後の需要予測について

◆調査箇所：特用林産復旧支援事業 奥畑地区（豊後大野市三重町奥畑）

<概要>

平成29年9月の台風第18号に伴う豪雨により、豊後大野市内では、多くのしいたけ農家にほだ木の流出の被害があった。調査を行った三重町奥畑地区では、ほだ木の流出に加え、河川の氾濫による冠水被害があり、しいたけ乾燥機も被災している。

今回の視察では、当時の被災状況と特用林産復旧支援事業による乾燥機の整備状況の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・河川氾濫時の避難状況について
- ・しいたけの生産再開について

◆調査箇所：耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業 小富士地区（竹田市片ヶ瀬）

<概要>

竹田市片ヶ瀬小富士地区では、事業を活用し、農地の区画整理を行うとともに、用水路のパイプライン化、カバープランツによる畦畔法面の緑化、鳥獣進入防止策設置などを行っている。

事業の結果、水管理や畦畔草刈り作業が省力化され、農地中間管理事業による担い手集積も進み、地域農業の持続的発展に効果をあげている。

今回の視察では、区画整理された農地やパイプライン等の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・水管理の省力化について
- ・農事組合法人白百合の経営状況について

◆調査箇所：豊肥振興局、農林水産研究指導センター農業研究部、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所、県央飛行場管理事務所

<概要>

豊肥振興局（管轄：竹田市、豊後大野市）及び農林水産研究指導センター、農業大学校、豊後大野家畜保健衛生所及び県央飛行場管理事務所から、組織及び管内の概要、水田農業の構造改革、担い手の確保・育成、肉用牛の産地づくりなど主要業務の概要とその進捗状況、各種試験研究の成果・普及状況及び家畜伝染病予防対策等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・県央飛行場の利用状況について
- ・製鋼スラグの農地利用技術の確立について
- ・加工業者向け野菜生産による園芸戦略品目の見直しについて

【平成30年5月16日（水）】

◆調査箇所：ぶんご銘醸株式会社（佐伯市直川横川）

<概要>

ぶんご銘醸株式会社は、地元農家で生産された米、麦による清酒、焼酎造りを行っている。平成29年度からは、県オリジナル大麦品種トヨノホシを使った焼酎「毛利」の生産販売を開始しており、今後、佐伯市内でのトヨノホシの作付面積拡大が期待されている。

今回の視察では、ぶんご銘醸株式会社の清酒、焼酎製造ライン及び隣接する株式会社亀の甲の甘酒製造ラインの調査を行った。



<主な質疑等>

- ・焼酎「毛利」について
- ・ニシノホシを利用した焼酎製造について
- ・甘酒の製造販売について

◆調査箇所：南部振興局、農林水産研究指導センター水産研究部

<概要>

南部振興局（管轄：佐伯市）及び農林水産研究指導センター水産研究部から、組織及び管内の概要や水産業の振興、林業・農業生産体制確立などの重点課題、東九州自動車道・祖母・傾・大崩ユネスコエコパークをいかした観光地づくり、南海トラフ地震対応の強化、水産に係る調査研究課題の主要事業等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・南部振興局における水産振興の位置付けと水産職員の定数について
- ・大入島オルレの状況について
- ・磯焼け対策の技術開発について

◆調査箇所：大分県漁業公社上浦事業場（佐伯市上浦津井浦）

<概要>

県漁業公社は、県、沿岸市町村、水産団体の共同出資により昭和46年に設立された団体である。国東市と佐伯市の2事業場で放流用及び養殖用の種苗生産と販売を行っている。

上浦事業場では、主に県南で捕れるイサキ、ヒラマサ、アワビ等の種苗を生産している。

今回の視察では、上浦事業場の種苗生産体制について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・公社の売上額と公益事業、収益事業の割合について
- ・カワウの被害対策について
- ・モクズガニの種苗あっせんについて

◆調査箇所：株式会社アクアファーム（佐伯市上浦最勝海浦）

<概要>

株式会社アクアファームはマルハニチロHDの一員として、ブリ・クロマグロの養殖を行っている。特にクロマグロは平成29年11月に大分で初めてとなる完全養殖に成功し、平成32年には年間8,000本、約400トンの生産を計画している。

また、地元高校生の職業体験にも取り組み、将来の水産業従事者の確保にも力を注いでいる。

今回の視察では、ブリ・マグロの生産体制について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・完全養殖クロマグロの出荷先について
- ・持続的資源・環境に配慮した養殖漁業について
- ・地域貢献について

【平成30年5月23日（水）】

◆調査箇所：東部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループ

<概要>

東部振興局（管轄：別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町）及び農林水産研究指導センター農業研究部果樹グループから、組織及び管内の概要や農地中間管理事業、新規就農者確保、基盤整備などの主要事業及び温州ミカンチームの有望品種「あすみ」の施設栽培技術の確立など重点研究課題の概要・進捗状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・新規就農者確保における移住者の居住確保について
- ・肥育牛生産における企業参入の状況について
- ・果樹グループ内での連携について

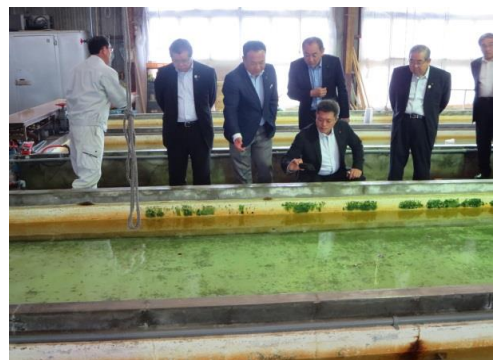
◆調査箇所：大分県漁業公社国東事業場（国東市国東町鶴川）

<概要>

県漁業公社は、県、沿岸市町村及び水産団体の共同出資により昭和46年に設立された団体である。国東市と佐伯市の2事業場で放流用及び養殖用の種苗生産と販売を行っているが、老朽化が進む国東事業場は現地での建て替えを検討している。

国東事業場では、主に県北で捕れるクルマエビ、マコガレイ、ガザミ等の種苗を生産している。

今回の視察では、老朽化した国東事業場の種苗生産体制について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・国東事業場と上浦事業場の統合に関する検討状況について
- ・ガザミの漁獲量減少と原因について
- ・国東事業場の全面建て替えによる建設費について

◆調査箇所：大分県農業協同組合東部事業所キウイフルーツ部会（国東市国東町浜崎）

<概要>

キウイフルーツは、長引く価格の低迷で生産量が減少していたが、近年需要が大きく伸び、単価も高値で安定していることから、平成29年度に戦略品目ネクストに認定されている。

キウイフルーツ部会では広域出荷体制を再整備し、選果機の改修工事を行うなど、増産に向けた生産体制の強化が行われ、29年度生産量は前年比1.3倍となっている。

今回の視察では、新たに整備した選果機や後継者対策について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・キウイフルーツの反収と単価について
- ・溶液受粉の必要性について

【平成30年5月24日（木）】

◆調査箇所：農林水産研究指導センター農業研究部花きグループ

<概要>

農林水産研究指導センター農業研究部花きグループから、組織の概要や研究・普及方針、アルストロメリアに対する大麦焼酎粕活用技術の確立、ホオズキのウイルス病総合防除技術の構築、トルコギキョウ等の種苗生産技術の確立など、これまでの試験研究の内容・成果の普及状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・大麦焼酎粕利用の課題について
- ・温泉熱を利用した県内農業者の数について
- ・ごみ焼却場の排熱を利用した農業について

◆調査箇所：経営体育成基盤整備事業（通作条件整備型）藤の川茅場地区（杵築市大内）

<概要>

杵築市大内藤の川茅場地区は、平成22年度に事業採択され、基幹農道から市道茅場中央線までを結ぶ一般農道が平成30年度に完成予定である。

現道の周辺は、みかんやいちごの栽培が盛んであるが、狭小で自動車の離合に支障があった。本事業により農産物の流通経路が確保されるとともに、観光農園の構想も検討されている。

今回の視察では、完成目前の一般農道と草刈り作業の省力化につながる法面施工の状況の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・農道の幅員について

◆調査箇所：株式会社匠牧場（杵築市山香町野原）

<概要>

株式会社匠牧場は、豊後高田市で黒毛和牛肥育を行っていたが、新たに500頭規模の肥育を行うため山香農業高校農場跡地を購入し、杵築市畜産クラスター事業を活用して畜舎、堆肥舎等を建設している。

生産した黒毛和牛の販売は、おおいた豊後牛サポーターショップ等を運営する関東、関西のレストラン事業者を予定している。

今回の視察では、新たに建設された畜舎、堆肥舎等と肥育管理について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・肥育牛の管理方法について
- ・肥育牛の販売先について

【平成30年5月29日（火）】

◆調査箇所：株式会社栄ライスサポート（日田市天瀬町馬原）

<概要>

株式会社栄ライスサポートは、地域貢献を基本理念に、水稻の収穫・乾燥調整業務を中心に受託する地域の中心的な担い手である。頼まれたら断らない姿勢が、生産者の強い信頼を得ており、収穫の作業受託面積は28.2haまで拡大している。

今回の視察では、後継者問題や担い手確保・経営強化支援事業で導入した遠赤外線乾燥機などについて調査を行った。



<主な質疑等>

- ・組織の構成員と役割について
- ・作業受託戸数と面積について
- ・後継者の育成について

◆調査箇所：西部振興局、農林水産研究指導センター林業研究部、玖珠家畜保健衛生所

<概要>

西部振興局（管轄：日田市、九重町、玖珠町）、農林水産研究指導センター林業研究部及び玖珠家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要や平成29年九州北部豪雨災害からの復旧状況、園芸戦略品目である梨の生産振興、林業重点研究課題の概要・進捗状況及び家畜伝染病予防の取組等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・海外観光客を対象とした家畜伝染病予防対策の取組について
- ・九州北部豪雨災害による農道、林道、樹園地の復旧状況について
- ・後継者育成確保の取組について



◆調査箇所：株式会社野上製材（日田市東有田ウッドコンビナート）

<概要>

株式会社野上製材は、スギ・ヒノキの一般建築材を生産し全国に出荷している。平成21年に大分方式乾燥材生産認定工場の認定を受け、平成29年7月からウッドコンビナート内に新工場を建設し、製材品の生産体制を強化している。

今回の視察では、新工場の生産ライン及び木材乾燥機等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・販売先について
- ・海外からの実習生受入れについて
- ・新工場の生産能力について

◆調査箇所：災害関連緊急治山事業 中ノ迫地区（日田市鶴河内）

<概要>

日田市鶴河内中ノ迫地区では、平成29年7月の九州北部豪雨により山腹が崩壊し大規模な土砂流出が起こった。土砂が直下の県道を閉塞し、農地、河川まで流出する被害を受けている。

不安定土砂が残ることから、災害関連緊急治山事業により土留工、簡易法枠工で新たな山腹崩壊を予防する工事を行っている。

今回の視察では、工事の概要について説明を受けるとともに、ドローンで上空から復旧工事の調査を行った。



<主な質疑等>

- ・災害現場におけるドローンの活用について
- ・災害復旧工事の進捗について

【平成30年5月30日（水）】

◆調査箇所：災害関連緊急地すべり防止事業 金吉地区（中津市耶馬溪町金吉）

<概要>

中津市耶馬溪町金吉地区では4月11日未明に突然山腹崩壊起こり、6名の人命が失われる災害が発生した。国の事業採択を受け、4月23日から応急復旧工事が開始され、大型土のう設置や仮設防護柵の設置を行っている。

今回の視察では、応急復旧工事の進捗状況、発生原因を特定するためのボーリング調査の実施状況等について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・応急復旧工事の進捗状況について
- ・本復旧工事の開始時期について
- ・被災地区の今後の居住について

#### ◆調査箇所：下郷農業協同組合ヨーグルト工場（中津市耶馬溪町金吉）

##### <概要>

下郷農業協同組合では、乳価下落や牛乳消費量の低下などの厳しい環境の中で、平成9年度から酪農家の所得向上を目指し、飲むヨーグルトを委託製造していた。平成29年度に補助事業を活用して、自社のヨーグルト工場を整備し、さらに付加価値の高い商品づくりと今後の販路拡大を計画している。

今回の視察では、下郷農協の牛乳生産の取組と新規で整備した飲むヨーグルトの製造ラインの調査を行った。



##### <主な質疑等>

- ・酪農家の戸数減少と生乳生産体制の維持について
- ・生乳消費量に占める、飲むヨーグルトの割合について
- ・酪農後継者育成の取組について

#### ◆調査箇所：株式会社中津もぎたてファクトリー（中津市三光諫山）

##### <概要>

株式会社中津もぎたてファクトリーは、地元認定農業者とスーパー、食品加工会社が共同出資して設立した、地元農産物を加工販売する会社である。平成29年度に6次産業化サポート体制整備事業を活用し、ほうれん草、小松菜等の野菜を冷凍惣菜に加工し、販売する工場を建設している。今後は中津市内で小松菜、ほうれん草の栽培面積が52haまで拡大される予定である。

今回の調査では、新工場の概要とHACCP対応の製造ラインについて調査を行った。



##### <主な質疑等>

- ・冷凍野菜（惣菜）の販売先と価格について
- ・集落営農組織との連携について
- ・冷凍野菜（惣菜）の今後のラインナップについて

#### ◆調査箇所：北部振興局、農林水産研究指導センター農業研究部水田農業グループ、浅海・内水面グループ、宇佐家畜保健衛生所

##### <概要>

北部振興局（管轄：中津市、豊後高田市、宇佐市）、水田農業グループ、浅海・内水面グループ及び宇佐家畜保健衛生所から、組織及び管内の概要、白ねぎ・いちご等の戦略品目の産地づくり推進など主要事業、水稻の乾田直播栽培、アサリ資源回復に関する調査研究など重点研究課題の概要と進捗状況、家畜伝染病予防事業等について調査を行った。



##### <主な質疑等>

- ・タチウオの資源量回復と種苗の放流について

◆調査箇所：株式会社石和田産業（宇佐市安心院町下毛）

<概要>

株式会社石和田産業は、三和酒類株式会社のワイン用ブドウを生産する農業生産法人である。国産ワインの消費が拡大する中で、醸造用ブドウが不足していたが、国営緊急農地再編整備事業に取り組み、4haの耕作放棄地をブドウ園によみがえらせた。今後も同事業を活用し、さらに圃場規模を拡大して、醸造用ブドウの生産に取り組む予定である。

今回の視察では、耕作放棄地の購入・再編整備の取組と整地された圃場について調査を行った。



<主な質疑等>

- ・国営緊急農地再編整備事業の概要について
- ・醸造用ブドウの生産拡大について